



きこえにくい子を指導する方  
に知って欲しいこと

基礎コース

長崎県立ろう学校  
自立活動部 地域支援班  
2021.11 vol.13



## まずはここから～簡単にできる自立活動1～

自立活動の指導で、どのような学習を行うと良いのかと、悩まれている先生方も多いかと思えます。今回は短時間でできる自立活動の内容を紹介します。

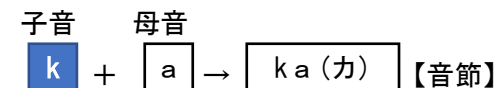
紹介する自立活動は、自立活動の時間の初めに行う簡単な実態把握や短時間での継続した練習になります。全く同じようにする必要はなく、子どもの実態に応じて、指導時間や内容などアレンジして指導してください。

また、同じような内容でも、学年相応のことば遣いや題材を扱うことも大切です。分からないからといつまでも分かりやすい簡単なことばかりを使っていると、語彙は増えません。学年が上がっていくにつれ、子どものプライドも尊重して内容を検討し、活用してください。

今回は「ことばを育てる」ことを目的とした簡単な自立活動を紹介します。

A. ことばの音韻と韻律

日本語は「サ」や「カ」のように、母音と子音が組み合わさっている音「音節」が基本です。「ッ(促音)」や「ー(長音)」のように、一音だけでは成り立たない音と音節を含め「音韻」といいます。また、ことばには音声の長短やアクセントなどのリズムがあります。会話の中には文章の中で強く発音したり音の高さを変えたりするイントネーションがあります。このようなことばのリズムを「韻律」といいます。



※音節に含まれない音「ッ」「ー」は【拍】と数える

- ☆ 正しくことばを覚えるためには音韻数を意識させる。
- ☆ 自然な発音には韻律を意識させる。

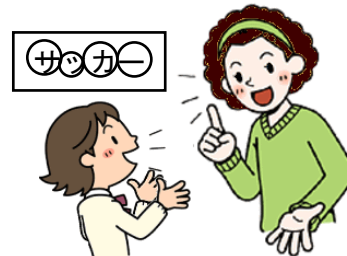
s+a+k+a	音節数		音韻数【音節+拍】	
坂	サ	カ	サ / カ	2
作家	サッ	カ	サ/ッ/カ	3
サッカー	サッ	カー	サ/ッ/カ/ー	4

会話の中では、長音や促音などが弱く発音された音が聞こえにくいことがあります。そのため、聞き間違えたまま覚えてしまうことがあります。また、大きくはっきりと話そうとしたり、不自然にことばを区切ってしまったりすると、韻律が崩れ、分かりにくくなります。自然な会話は、「音韻」を並べるだけでなく、ことばのリズムである「韻律」も大切です。

ことばの成り立ちである「音韻」やことばの持つリズム「韻律」を意識することで、自然な話しことばになります。音韻が意識できていないと、正しくことばを覚えることはできません。ことばがいくつかの音韻から成り立っているかを確認し、自然な韻律で話せるよう、この方法で練習してみましょう。

(1) 子どもに単語を言いながら、手をたたかせる。

- ※ 教師がたたいて見せて確認し、たたかせる。
- ※ 聞き取りだけであいまいな場合は、カードに音韻数の○を書いたものを見せ、カードを指し示しながらリズムを確認する。



(2) 促音や長音などはリズムをつけて、手をたたくよう促す。

- ※ あいまいな場合は、教師がリズムカルにたたいてみせる。
- 促音や長音は見てわかるように大きめにたたくと分かりやすい。

(3) 教師が言うことばに合わせて、手をたたかせる。

ことばと手拍子がずれる子どもは、他者の声がきちんと聞き取れていない、ことばがいくつかの音から成り立っているか理解できていないなどが考えられます。耳で聞いて覚えている場合、撥音(ン)や長音(ー)、リズムやアクセントを意識させるためにも、確認して指導に活かすためにも有効です。手をたたくだけでなく、視覚で確認させるため、カードに音韻数の○を書いて示すとわかりやすいでしょう。

音韻を指導する場合、「りんご」なら3回、「サッカー」なら4回、同じリズムでたたきますが、韻律を指導する場合は、「りんご」なら「タンッ、タン」、「サッカー」なら「タンッ、ター」というようにリズムによって手をたたき、指導していくとよいでしょう。促音(ッ)や撥音(ン)などは、手をグーにしたり、手前に引いたりして、音韻があることを示すと分かりやすいでしょう。また、「おとうさん」などの「ウ」を長音(ー)として発音させるなど、自然な発音になるよう意識しましょう。手をたたくことで音韻や韻律を意識させ、ことばのリズムを覚えさせ、語彙を増やしていきましょう。

## B. 母音の発音指導

日本語の音節は、「ン」以外の音は全て母音が含まれています。そのため、母音が明瞭になると発音明瞭度が20%程度向上するといわれています。また、動詞や形容詞など活用のある語は、母音の変化で語尾が変わります。例えば「書く」の場合、「書かない」「書きます」「書くとき」「書けば」などと変化していきます。子音は同じですが、口形をはっきり変化させると伝わりやすさが向上します。まずは、母音をはっきりと発音できるよう練習しましょう。

## (1) 「口形」「舌」「息」のトレーニングを行う。

- ※ 唇：唇を突き出したり「ウ」、横に引いたり「イ」、閉じたり「ン」する。
- ※ あご：口を大きく開けたり「パ」閉じたり「ン」、下あごを左右に動かしたりする。
- ※ 舌：口を大きく開き舌を動かす。
  - 舌を突き出したり戻したりする。「レロレロ」
  - 舌を鼻に近づけたりあごに近づけたりする。「アンカンペー」
  - 舌先を唇の右側や左側につける。「ペコちゃん」
  - 下を唇に沿って回す。「ゴリラ回し」
  - 舌をとがらせたり、平たく伸ばしたり形を変える。

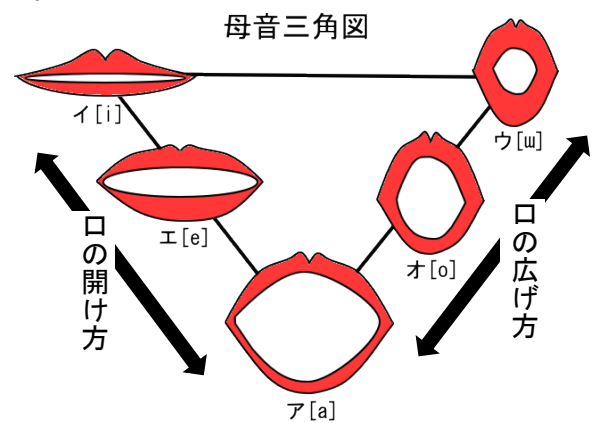
子どもたちに面白い名前をつけさせるとイメージしやすく、分かりやすいです。

## (2) 口形を意識して単音ずつ発音をさせる。

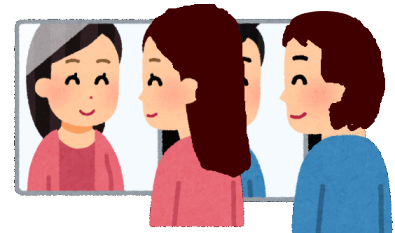
- ※ 鏡を使って、口の形を確認させる。
- ※ 「ア——」と息を伸ばしたり、「ア・ア・ア」と切ったりして、息の出し方や止め方を練習する。

## (3) 母音の発音を口の開け方や広げ方の違いを意識させながらおこなう。

- 「ア・エ・イ」「ア・オ・ウ」と確認しながらゆっくりと言わせたり、早口で言わせたりする。
- 「イ・ウ」「エ・オ」を繰り返す。



発音指導の前に、発音に関わる唇やあご、舌などを動かしましょう。スムーズに発音練習に取りかかることができます。口の開け方や舌の使い方など、説明だけでなく教師の口元を見せながら指導するとわかりやすく効果的です。手鏡で自分の口形を確認させながら指導しましょう。洗面所の鏡など、教師と二人が映る鏡があると、口形を比較しやすく分かりやすいです。



日常の会話の中で不明瞭になることばをその場で指摘して、いい直しをさせましょう。発音練習を思い出し、不明瞭になりやすい自分の癖がわかり、正しい発音を意識することができます。毎日の練習や日常生活の中での誤音矯正が、発音の明瞭度を向上させることにつながります。